

## トピックス

### ■大腸がんグループ

大腸がんは、根治切除可能であれば手術に勝る治療はありません。消化管外科が新体制となった2013年10月以降1,600例を超える大腸がん手術を行ってまいりましたが、一般施設では対応が困難な進行・再発大腸がんもたくさん含まれます。単に手術をするだけでなく、近隣の病院や診療所の先生方との連携を密にして、患者さんが手術後の生活を安心して過ごせるように努めています。進行直腸がんには、術前化学放射線療法を積極的に行い、さらに放射線科や病理検査部と共同で切除標本のMRI解析を行うなどして、人工肛門の回避や根治性の向上を図っています。術前化学放射線療法後の直腸がん根治術の3年無再発生存率は80%を超えており明らかな局所再発は見られません。また直腸がん低位前方切除術後の縫合不全の問題についても、人工肛門なしで安全に管理できる肛門ドレーン造影法を開発し、一時的な人工肛門を要した患者さんは全体の7%まで低下しました。遠隔転移症例や再発症例には、化学療法の専門医が遺伝子解析に基づいた個々の患者さんに最も適した治療法を行います。困難症例に対しても、会陰側からの内視鏡手術(taTME)や伏臥位手術など、現在あるすべての術式を適切に組み合わせるシステムを用いて、安全な根治術が可能となり根治と機能温存の両立が可能となっています。また、再建腸間の血流評価や、蛍光尿管カテーテルを用いた尿管の術中認識など、ICGカメラによるimage navigation手術により、安全で確実な根治術が可能となっています。

これらの技術開発や成績は、英文誌を用いて積極的に国内外に発信し続けています。



# CLINICAL REPORT 2022

 関西医科大学附属病院  
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

## 消化管外科

科長

濱田 円 消化管外科

外科学講座主任教授

関本 貢嗣 下部消化管外科

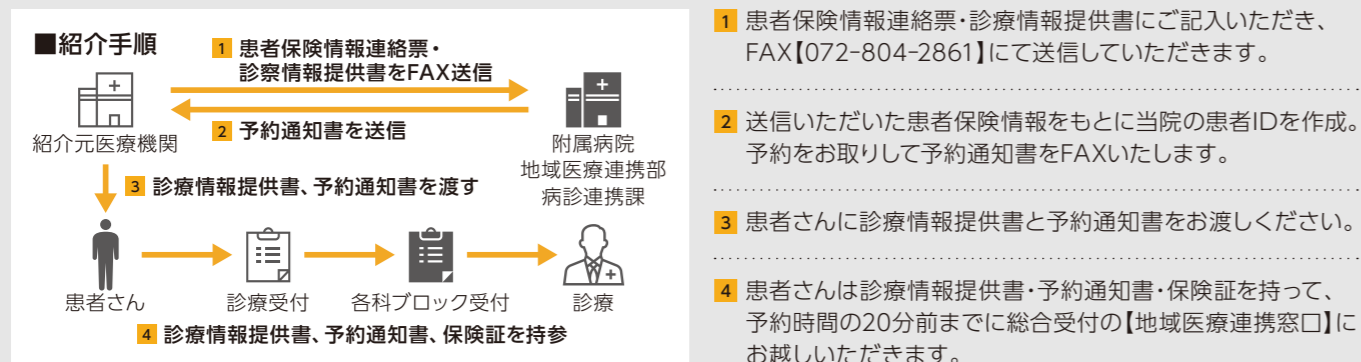
上部消化管外科診療教授

井上 健太郎 上部消化管外科

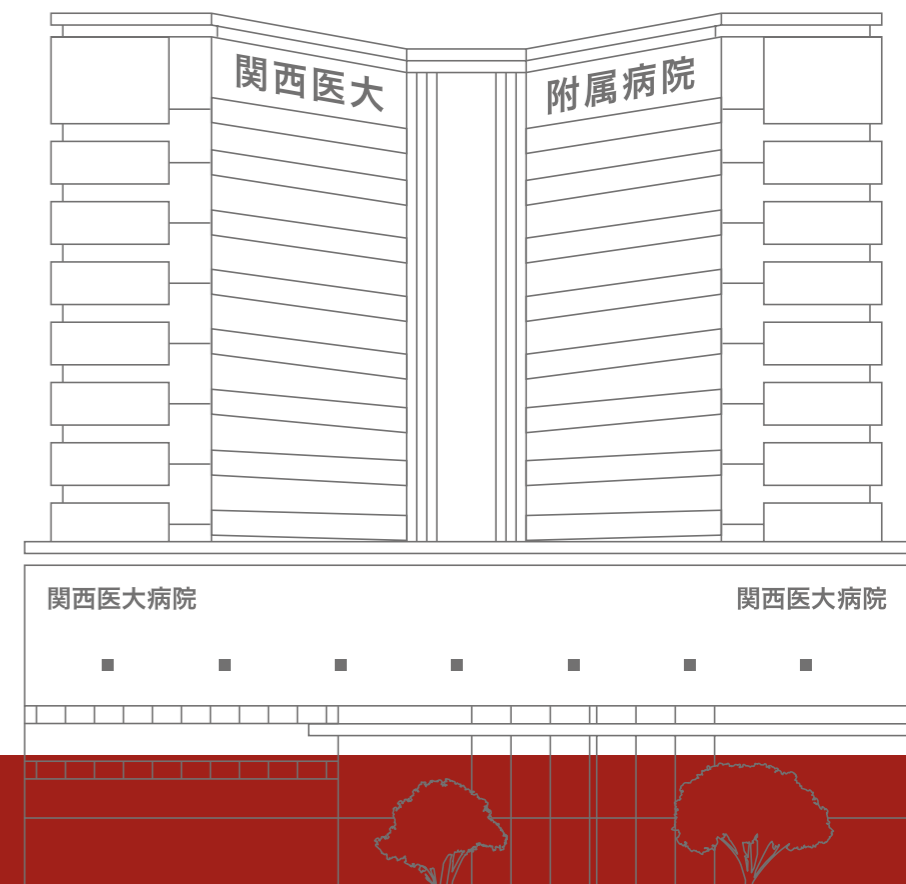
消化管外科病院教授

山崎 誠 上部消化管外科

## 患者さんの紹介について



※診療科、診療日、医師の指定がある場合は、FAXにご記入ください。  
※用紙請求については当院ホームページよりダウンロードいただくか、下部の連絡先にご連絡いただきますようお願いいたします。  
※受付時間 平日 8:30~20:00/土曜日 8:30~12:30



## 診療実績 (2021年度)

外来新患者数	793人	入院新患者数	932人
外来延患者数	17,642人	入院延患者数	15,291人

## 治療成績 (2021年度)

### ■食道

初発食道がん手術症例 80例 (da Vinci 9例、胸(腹)腔鏡 61例、その他 10例)  
再発食道がん手術 1例、食道良性疾患 5例

### ■胃

初発胃がん 122例 (開腹手術 54例、腹腔鏡手術 68例)  
GIST 10例、肥満代謝手術 6例など

### ■大腸

初発大腸がん 213例 (開腹術 26例、腹腔鏡下手術 187例) (直腸がん 70例、結腸がん 143例)、悪性リンパ腫 5例  
GIST 8例、再発がん 14例 (大腸がん 7例、婦人科がん 7例) 腹腔鏡下手術 9例など

## 診療アウトライン

私たちは、食道がん・胃がん・大腸がんの手術を専門としており、近畿圏でも有数の手術数を誇ります。多くの内視鏡外科学会技術認定医を擁し、通常のがん手術は全て低侵襲な鏡視下手術で行っています。また、一般施設では対応が難しい高度進行がんや合併症を持つ患者さんの治療にも取り組んでおり、がんの根治と安全性やQOL維持のバランスを十分に検討した上で治療方針を決めています。その際、患者さんのお考えを十分に聞き、個々の患者さんにとって一番良い治療を目指します。一日でも早く日常生活へ復帰していただくように、日々の診療を行っています。また、高度肥満や糖尿病で内科的治療が困難な患者さんに対する外科治療が欧米では広く普及していますが、私たちの施設でも積極的に取り組んでいます。

## トピックス

### ■食道がんグループ

食道がん治療は、手術療法・内視鏡治療・放射線治療・化学療法(免疫療法)を組み合わせた集学的治療が重要です。週1回のカンサーボードでは、関係各科が全症例検討を行い、最善の治療を提供しています。食道がんの手術件数は2021年度80件施行しており、関西でトップ3の症例数を誇ります。外科治療においては低侵襲手術を積極的に導入し、2021年度は胸部食道がんのすべてを内視鏡手術を施行しました。中でも10月からはda Vinciを用いたロボット支援下手術も導入しており、より低侵襲で精緻な手術を実施しております。一方、高度進行食道がんに対する集学的治療にも取り組んでおり、切除不能と診断された周囲臓器に浸潤した食道がんに対する拡大根治手術では、本邦のリーディングホスピタルとして発信しています。また、術前後のみならず、化学(放射線)療法中や退院後に至るまで、リハビリテーション科や栄養管理部、看護部と連携を取りながら、より元気に過ごしていただくチーム医療を提供しています。



### ■胃がんグループ

胃がん手術件数は過去10年間(2012年1月~2021年12月)で1,585件で、うち755件が腹腔鏡手術です。術前化学療法などの集学的治療も過去10年間で129件に及びます。化学療法は化学療法専門医が実施しており、免疫チェックポイント阻害薬などの新薬の治験も多数行っています。また、最近では一人暮らしの高齢者が増えています。外来での継続的な栄養指導、患者会、そして地域連携パスにより、しっかりとサポートするように努めています。2012年から高度肥満や糖尿病に対する減量・代謝改善手術を開始しており、現在までに75件以上実施し、安全かつ良好な体重減少効果と糖尿病寛解効果を得ています。

